

CNP認証(コンテナターミナル)について

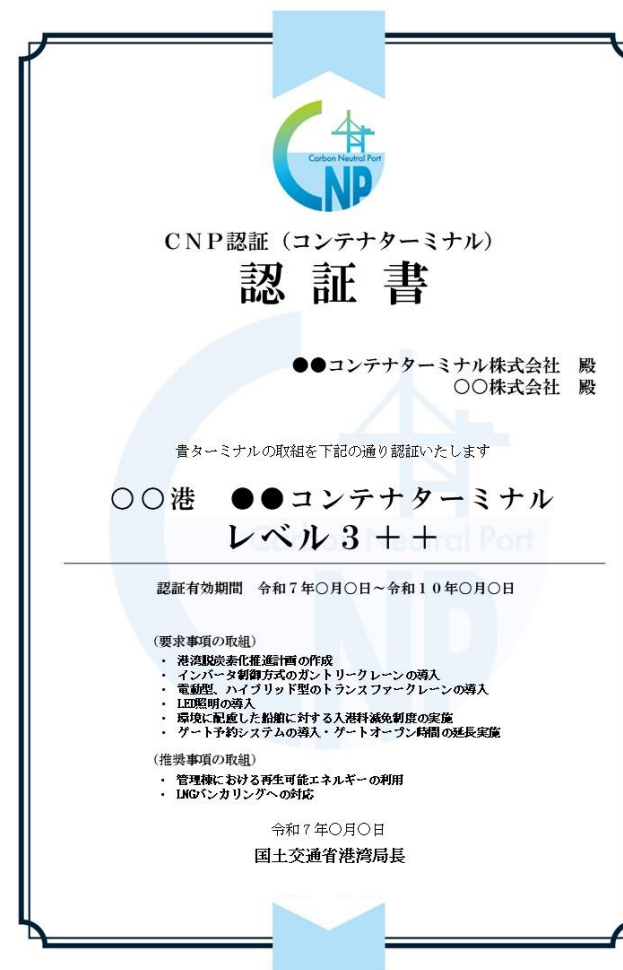
令和8年1月27日

国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部

- 2025年6月、コンテナターミナルにおける脱炭素化の取組を客観的に評価する「CNP認証(コンテナターミナル)」の運用を開始
- 港湾ユーザーがカーボンニュートラルの観点でターミナルを選択することが可能となることから、ポートセールスでの活用とともに、CNP形成に向けたターミナル間での競争を期待

制度の概要

- 対象
 - ・ 日本国内のコンテナターミナル
- 申請者
 - ・ 港湾管理者が運営するターミナル
→ 港湾管理者
 - ・ 民間事業者が運営するターミナル
→ 借受者又はターミナルオペレーター
- 認証者
 - ・ 国土交通省港湾局
- 評価方法・基準
 - ・ 「要求事項」の達成状況を5段階で評価
 - ・ 「推奨事項」の達成状況を「+」の数で評価
- 認証有効期間
 - ・ 3年





CNP認証 評価基準

- 評価の対象は、①貨物取扱に関する取組、②船舶・車両の脱炭素化、③その他の取組
- レベル1～5の5段階で認証、各レベルで設定している「要求事項」を全てを満たすことが必要
- 「推奨事項」を満たしている場合、その項目数に応じて「+」を付加

CNP認証(コンテナターミナル)評価基準

大分類	主な取り組み	要求事項(レベル1～5)					推奨事項(+)
		1	2	3	4	5	
貨物取扱に関する取組	脱炭素化に向けた計画を作成	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・構内トラクター電動化など ・リーファー施設、管理棟の省電力化など
	脱炭素化対応荷役機械の導入	－	10%	50%	80%	100%	
	LED照明などの導入	－	10%	50%	80%	100%	
船舶・車両の脱炭素化	環境に配慮した船舶への入港インセンティブ付与	－	－	－	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・船舶への陸上電力の供給 ・次世代船舶燃料の供給 ・大型商用EV・FCV等に対するインセンティブ
	ゲート予約システムの導入	－	－	－	○	○	
その他	上記以外の低・脱炭素化の取組	－	－	－	－	－	<ul style="list-style-type: none"> ・低・脱炭素化された電力・燃料の利用 ・環境配慮タグボートの導入

- 2025年9月に5ターミナル、同年11月に2ターミナルをそれぞれ認証
- 一つの港湾で複数のターミナルが認証を取得しているのは大阪港のみ (R8.1.27時点)

認証済みのターミナル

認証時期	港湾・ターミナル名	認証レベル
2025年 9月	博多港アイランドシティコンテナターミナル	レベル5+ ★★★★★
2025年 9月	川崎港コンテナターミナル	レベル4+ ★★★★★☆
2025年 9月	名古屋港鍋田ふ頭コンテナターミナル	レベル3++ ★★☆☆☆
2025年 9月	大阪港南港コンテナターミナル C-1/4	レベル2+ ★★☆☆☆
2025年 9月	高松港コンテナターミナル	レベル1 ★☆☆☆☆
2025年11月	大阪港夢洲コンテナターミナル C10, C11, C12	レベル2++ ★★☆☆☆
2025年11月	八戸港 多目的国際物流ターミナル	レベル1 ★☆☆☆☆

「博多港アイランドシティコンテナターミナル」の例

認証レベル	レベル5+ ★★★★★
-------	-------------

港湾脱炭素化推進計画の作成	令和5年11月策定
インバータ制御方式のガントリークレーン導入	導入率100%
低・脱炭素型トランスファークレーン導入	導入率100%
LED照明の導入	導入率100%
環境配慮船舶への入港インセンティブ	入港料減免制度導入
ゲート前渋滞・ヤード滞留対策	物流ITシステム導入



電動トランスファークレーン



インバータ制御方式のガントリークレーン

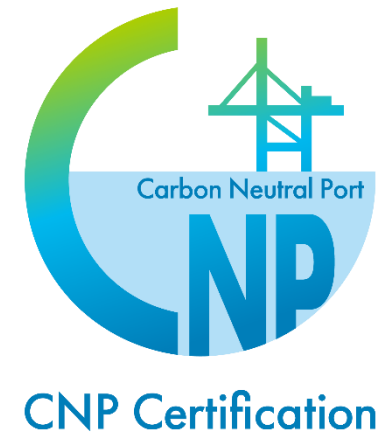
写真提供: 博多港ふ頭

大阪港南港コンテナターミナル C - 1 / 4

脱炭素化の取組主体	主な取組内容
株式会社辰巳商会	ハイブリッド型RTGの導入
阪神国際港湾株式会社	コンテナヤード内照明のLED化
阪神国際港湾株式会社	インバーター制御方式ガントリークレーンの導入
大阪市	大阪港・堺泉北港・阪南港 港湾脱炭素化推進計画の策定 (策定者：大阪市、大阪府)

[ターミナル概要]

1974年コンテナターミナル事業を開始。日本最大級1,400mの連続コンテナバースを運営し、大阪港におけるコンテナ貨物取扱いシェアの1/3を占める。近年は、ハイブリッド型RTG導入による二酸化炭素排出の低減や、港湾運営会社協力によるLED照明導入など、環境に配慮した港湾荷役への取り組みに力を入れている。



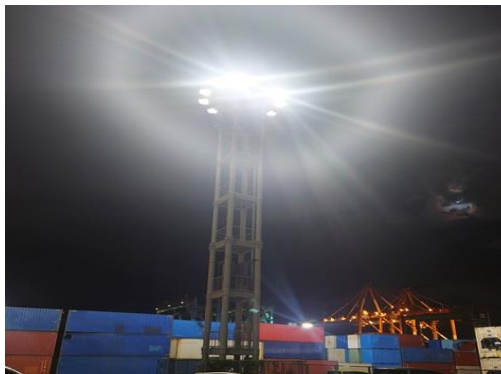
認証レベル
Level 2 +

(認証日 令和7年9月25日)

CO₂排出量原単位
8.13 kgs CO₂ / TEU



ハイブリッド型RTGでのコンテナ積卸し



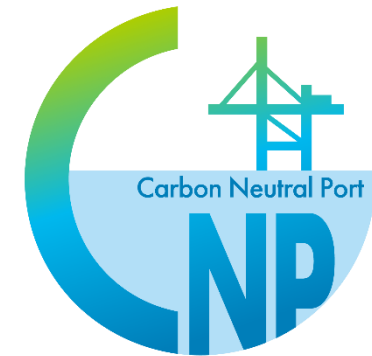
コンテナヤード内LED照明



インバーター制御方式ガントリークレーン

大阪港夢洲コンテナターミナル C10,C11,C12

脱炭素化の取組主体	主な取組内容
夢洲コンテナターミナル株式会社 エバグリーンマリンコーポレーション（台湾） リミテッド	ハイブリッド型RTGの導入
阪神国際港湾(株) 夢洲コンテナターミナル株式会社 大阪港埠頭(株)	コンテナヤード内照明のLED化
阪神国際港湾(株) 夢洲コンテナターミナル株式会社 大阪港埠頭(株)	インバーター制御方式ガントリークレーンの導入
阪神国際港湾(株) 大阪市 夢洲コンテナターミナル株式会社	ゲート前の渋滞、ヤード内の滞留対策の実施 (CONPASの導入)



CNP Certification

認証レベル
Level 2 + +

(認証日 令和7年11月5日)

CO₂排出量原単位

—

(算出に必要な一部情報が不足)

[ターミナル概要]

大阪港夢洲コンテナターミナルは、岸壁延長1,350m、水深15m～16m、ヤード総面積約739,000㎡を誇る3バース一体運用の高規格ターミナルです。大型コンテナ船の寄港やコンテナ貨物の増加に対応するため、効率化を継続的に進めております。

近年では、持続可能な港湾運営の実現に向けて、RTGのハイブリッド化、構内照明及び建物内のLED化、ゲート前の渋滞、ヤード内の滞留対策など、脱炭素化に積極的に取り組むことで、地域社会と環境への責任を果たすカーボンニュートラルポートとして進化を続けています。



ハイブリッド型RTG



コンテナヤード内
照明塔のLED化



インバーター制御方式による
ガントリークレーン



C12延伸部集中ゲート

CNP認証の効果、制度に対する意見等

○ 認証を取得したターミナルに対し、アンケートを実施

■ Q：今回、CNP認証を申請された理由、キッカケについてご教示ください。

✓ 客観的評価による信頼性向上と脱炭素化の取組が見える化

「これまでの脱炭素・省エネの取組を国の制度で正式に評価してもらえることに魅力を感じた」

「これまで評価される場がなかった取組が見える化できる点に意義を感じた」

「これまで行ってきたカーボンニュートラルの取組について客観的に評価してほしかったため」

✓ 港湾の認知度・利用価値の向上

「港湾の認知度や利用価値が高まり、荷主や船会社にとって信頼性のある選択基準になると考えた」

✓ PR効果と競争力強化

「CNPの取組を広くPRできる機会として活用したい」

■ Q：CNP認証後の具体的な効果（今後期待される効果等含む）についてご教示ください。

✓ 認知度・話題性の向上

「認証取得後の問い合わせや具体的な利用促進効果はまだ限定的」

「関係者間で話題となり、複数のメディアで報道されるなど、CNP認証の認知度が高まった。」

「脱炭素取組の可視化これまでの取組を対外的に示す機会となり、社外への認知向上に寄与。」

「国や自治体から、認証されると企業イメージがあがり、新規採用時のP R等にも使える。」

✓ 今後の活用意向

「ターミナル説明や営業活動で認証を活用し、荷主・船社への利用促進を図る予定。」